

ICHIRO MILANO DESIGN WEEK 2014

JAPANESE TRADITIONAL THINGS

with Jo Nagasaka

08 - 13 Apr. 2014 at Spazio Rossana Orlandi

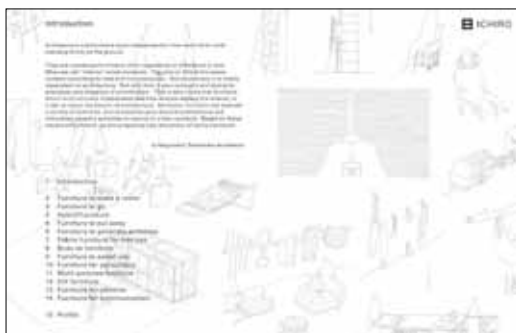
Via Matteo Bandello 14/16 20123 Milano



INTRODUCTION

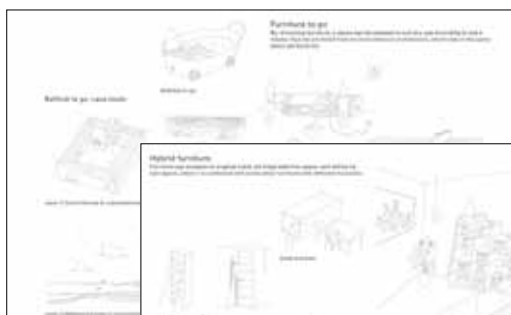
株式会社伊千呂は、長坂常（スキーマ建築計画・代表）による新たな発想の照明、テーブル、スツールのコンセプトモデルをミラノ・サローネで発表します。

伊千呂と長坂常は、これまで言語化されてこなかった家具と空間の関係性に着目し、アクティビティを豊かにする家具のコンセプトをまとめました。今回の展示は、このコンセプトに基づき、伊千呂が既存の家具カテゴリーに留まることなく、新たな領域へと拡大するためのコンセプチュアルワークです。今回発表するコンセプチュアルワークは、伝統的素材である竹と工業素材との組み合わせで、それぞれの用途に応じたスペックを生み出し、行動に変化を与える家具シリーズと、「縛る」という行為から生まれるかたちをそのまま表現した家具シリーズの2つです。



CONCEPT BOOK

伊千呂は2013年スキーマ建築計画とともに、「家具と建築の間」をテーマに、デザイン家具の分野の研究を行い、これまで言語化されてこなかった家具と空間の関係性に着目し、ユーザーのアクティビティを豊にする家具を13のカテゴリーに設定し、コンセプトブックにまとめました。



- ・部屋をつくる家具
- ・おでかけ家具
- ・複合家具
- ・しまえる家具
- ・行動に変化を与える家具
- ・布のルーズさ故に生まれる自由な家具
- ・家具いらず
- ・おたすけ家具
- ・農業を楽しくする家具
- ・多用途家具
- ・セルフビルド家具
- ・子供の成長に合わせた家具
- ・コミュニケーションを誘発する家具

TAKE KAGO

JAPANESE TRADITIONAL MATERIAL

日本の伝統的な軽い籠、竹籠と現代の素材を組み合わせ、職人の手を介さずに竹を扱うことで、軽い家具を実現させ、新たなアクティビティを想像する。



_TO THE LIGHTING

本来、竹部と紙部が一体をなす伝統的な構成を壊し、分離、独立させることで、上部を照らす間接照明としての用途と下部を照らすダイニング照明の用途の2wayを生み出した。さらに電球の取り付け位置をかえ、床置き照明としての機能も付加される。結果、豊かなアクティビティを支える照明となっている。



_TO THE BENCH

本来、座るには十分ではない強度の竹籠にラバーを絡めることによってその強度を増すと共に、竹籠特有のささくれをカバーし、座ることを可能にした。それによって軽いベンチが生まれ豊かなアクティビティを生み出す。



_TO THE LOW TABLE

編み方の立体感を利用し、凹凸をつくり、そこに色の付いたエポキシ樹脂を流し込むことで凹凸による色の濃淡が生まれ、テーブル側面の表情を生み出している。長坂にとって垂直面にエポキシ樹脂を使用したはじめての試みとなる。

SHIBARI

JAPANESE TRADITIONAL LOVE AFFAIR

縛るモノ、縛り方をかえることで豊かなアクティビティを生み出す家具を想像する。



©Hiroataka Hashimoto

_TO THE SOFA

一枚のスポンジを折り、縄でしばることで造形され、ラバーにつけることで表面をコーティングし、ソファにかえる。縄が食い込みながらもスポンジの弾力性を誇張するため非常に見栄えがいい。結び目を持つことで容易に持ち運びができる、アクティビティを豊かにするソファとなる。

EVENT OUTLINE

タイトル：JAPANESE TRADITIONAL THINGS with Jo Nagasaka

会場：Spazio Rossana Orlandi (ロッサーナ・オルランディ)
Via Matteo Bandello 14/16,20123 Milano

期間：2014年4月8日(火) - 4月13日(日)

時間：9:00-20:00

PROFILE

Jo Nagasaka

建築家 / スキーマ建築計画 代表

1998年東京藝術大学美術学部建築学科卒業。同年、スキーマ建築計画開設し、その後、2007年事務所を上目黒に移転し、ギャラリーとショップなどを共有するコラボレーションオフィス「HAPPA」を設立。

<http://schemata.jp/>

ICHIRO Inc.

化粧板メーカーの伊千呂は、これまでの「家具」という概念をもう一度根本から見直し、新しい切り口で「生活の道具としての家具」を生み出したいという思いから、空間と人とモノの新しい関係を提案し、人が自分らしく生きられる未来が浮かび上がるようなプロダクトをお届けしています。

<http://www.ichirodesign.jp>

CONTACT

ICHIRO Inc.

Tel:052-793-1205

URL : <http://www.ichirodesign.jp>

Press contact:

daily press 担当：川村

mihokawamura@dailypress.org

tel.03-5771-7277